

第56回九州地区医師会立共同利用施設連絡協議会 参加報告



常任理事 玉城 研太朗

第56回九州地区医師会立共同利用施設連絡協議会 日程表

会期：令和7年7月5日（土）・6日（日）
場所：ホテルニューオータニ博多

連絡協議会会長 菊池 仁志（福岡市医師会会长）
連絡協議会実行委員長
案浦 美雪（福岡市医師会副会長）

令和7年7月5日（土）

受付	4F ホワイエ
各部門管理者会（医師会病院部門）	3F 芙蓉の間・華
各部門管理者会（検査・検診部門）	3F 芙蓉の間・雅
各部門管理者会（高齢社会事業部門）	3F アイリス
分科 会司会・演者・座長打合わせ	4F 梅・菊・あじさい
第1分科会（医師会病院部門）	3F 芙蓉の間・華
第2分科会（検査・検診部門）	3F 芙蓉の間・雅
第3分科会（高齢社会事業部門）	3F アイリス
懇親会	4F 鶴の間

令和7年7月6日（日）

特別講演I	3F 芙蓉の間
演題 「医療を取り巻く最近の動向と日本医師会（仮）」	
講師 日本医師会 会長 松本 吉郎 先生	
特別講演II	
演題 「豊臣政権と九州」	
講師 福岡市博物館 総館長 中野 等 先生	
閉会行事	

令和7年7月5日・6日 於 福岡市

令和7年7月、真夏の福岡で開催された「第56回九州地区医師会立共同利用施設連絡協議会」に参加してまいりました。会議そのものも充実しておりましたが、まずは前日談から。

協議会前日は宮崎県で講演。講演終了後、宮崎ブーゲンビリア空港より空路福岡入り……のはずが、「火山灰の影響でフライトが欠航になる可能性があります」との不穏なアナウンス。なんと新燃岳が元気に噴火中とのこと。運を天に任せる形で搭乗し、無事に離陸した瞬間にはホッと胸を撫で下ろしました。

ところが離陸して数分後、機内に突如として広がる“刺激臭”。隣の席の中年男性がやらかしたのかと疑ったその刹那、周囲からも「くさいね～」「誰よ～？」との声。まさかの犯人は、火山でした。どうやら上空でも硫黄の匂いは健在。人生でそうそう経験できない“空飛ぶ噴火臭”に、ある意味貴重な思い出が加わりました。

さて本題です。私は今回、「各部門管理者会（検査・検診部門）」および「第2分科会」に参加いたしました。

管理者会の幕開けは、我らが那覇市医師会生活習慣病検診センター・城間尚次長によるご講演「検診車の胸部X線検査時における事故対策の検討について」。巡回バスでの検査中、昇降台から高齢者が転倒し大腿骨骨折という痛ましい事案を受けて、事故原因の究明から再発防止策まで、極めて丁寧な報告がなされました。

昇降台に手すりがなかったこと、事故後には顧問弁護士や保険会社と連携し誠実な対応を行ったこと、さらには九州全域の検診施設にアンケートを行い、ヒヤリハット事例の共有に努めた点など、他施設にとっても極めて実用的な知見となる内容でした。

また、センター所長の崎原永辰先生より、「そもそも昇降台が動くのがおかしい！X線管球が動く装置なら事故は起きにくい。メーカーに物申す

べし！」との、もはや演説のような力強い一言が飛び出し、会場内も大いにうなづいておりました。

続いてのご講演は、福岡市医師会による「検査センターの人材育成～検査技術向上への取り組み～」。研修内容も非常に濃密で、技術向上に向けてのご尽力には感服。ただし、少々詰め込みすぎの感もあり、産業保健の立場からは「このままだと燃え尽き症候群まっしぐらでは…？」と心配になるほど。技術と働きやすさの両立を願ってやみません。

午後からの第2分科会では3題の演題発表がありました。

1. 「糖尿病重症化予防への取り組み～尿中ALB定量検査の活用～」(飯塚記念病院・豊永副院長)
2. 「胃検査の現状と課題」(小倉医師会健診センター・佐藤係長)
3. 「検査結果配信と電子カルテ連携による効率的院内外連携」(福岡市医師会・高下室長)

なかでも印象に残ったのは、2題目の胃検査に関する取り組みです。受診率向上に向けて着実

に成果を出しつつある中、会場から「いつまでバリウムを続けるんですか？内視鏡に変えるべきでは？」との厳しめコメントも飛び出しました。しかし、これは少々一面的な見方。国の指針に則ったバリウム検査は、限られたリソースの中で住民の受診機会を確保する現実的かつ有効な手段です。理想と現場の狭間で奮闘する小倉医師会のご努力に、拍手を送りたいと思います。

そして最後に、個人的なハイライト——なんと、信州大学医学部バスケ部時代の先輩、宮崎市郡医師会理事・菊池安剛先生との奇跡の再会がありました。20年以上ぶり、いや、30年近いご無沙汰だったかもしれません。かつて“信大のゴリ（スラムダンク）”としてリバウンドを制していた大先輩は、今なお圧巻の存在感で、懐かしい思い出話に花が咲きました。いや～、月日は流れても、バスケ魂は変わらぬものですね。

そんなこんなで、学び多く、笑いもあり、感動もあった第56回協議会となりました。来年もまた、こうした出会いと知見の場を楽しみにしております。

